

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	エダキン ユメカナ キャラバン えだきん×夢叶きやらばん
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	横浜市都筑区荏田南5丁目
提案名 (25字以内)	リアルとバーチャルで夢を応援えだきんメタワールド
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※1を工夫した点※2にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>1 青空テラス (講座や屋台食堂の開催場所)</p> <p>現在パリジェヌ (パン屋) の店先にある古いテラスを、解体・新設しより多くの地域住民が気軽に寛げる空間にする。席数を増やし収容人数を増やすことで雨でもくつろいだり教室が開催できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウッドデッキ：壊れて危険なテラスを解体・新設 ・テーブルと椅子：造り付けのテーブルと椅子 ・簡易手洗い場の設置 ・トイレの整備 <p>2 いつでもステージ (発表の場)</p> <p>テラスの一部をステージにして、挑戦へのハードルを下げ夢を応援!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明設備、音響設備用コンセント、スクリーン設置 <p>3 リアルとバーチャルを繋ぐシャッター</p> <p>シャッターにバーチャル空間の入口となるQRコードを描く。</p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	<p>1 青空テラス</p> <p>自由に利用することができる、青空テラスにすることで、閉ざされた空間としてではなく、開けっ広げで誰でも集える場として開放し、誰もが気軽に立ち寄れる場にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋台食堂を開催し、地域での個食孤独孤立の低減へ向け、地域で食を支援する。 ・講座 (スマホ講座など) やワークショップを開催することにより、地域住民が通りすがりでも聞くことができるようにする。 <p>それにより参加への敷居を下げ、交流 (ネットワーク作り)、学びや出会いのきっかけとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント企画 運営メンバーが近隣の活発な地域活動を行っている

	<p>人々と積極的につながり、不登校児親子向けの居場所、多世代フリースクール（子どもからお年寄りまで）などを実施する。（詳細は別紙）</p> <p>2 いつでもステージ（収納式舞台設備） 地域住民やその所属しているグループが気軽に発表できる場。音響、照明、映像設備を備え、カラオケ、コーラス、楽器、ダンスなど、いつでも誰でも気軽に発表できる場にしたい。</p> <p>3 リアルとバーチャルを繋ぐシャッター アプリ「バーチャル空間の商店街」を開発し、そこでお仕事体験や学習支援、ネットでの買い物体験、ステージ発表など「疑似体験」が気軽にできる。さらに、そこで得た地域通貨はリアルのえだきん商店街で使用できるようにすることで、相乗効果を生み出す。結果的に商店街の活性化にもつながる。</p>
<p>提案の背景 （なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください）</p> <p>※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>引きこもり気味の小中高生から高齢者など、外へのつながりを持ちたくてもハードルを感じる人がいる。人前で何かをいきなりやるにはハードルが高い。一方、バーチャルは、何度でも失敗でき挑戦できるので、ハードルが低い。でも、バーチャルだけではまだ生きていけない。そこで、バーチャルとリアルをつなぐ中継点として「安心」して、近隣の小中高校生からシニアまで、集い、学べて体験できる「中間支援的な空間」を作る。</p> <p>ここは、普段から買い物や通勤などで人が通り、老若男女が利用し、挨拶を交わす場所になっている。また、子どもが使い終わった自転車等おもちゃが自然と集まり、それを使いたい親子が自然と集まってくる。ここで自転車に乗れるようになった子どもは数知れず！放課後には、小中学生のたまり場となり、課題やゲーム、談笑を楽しんでいる。地域の子どもからシニアまで必要とされているこの場所に、リアルとバーチャルを双方向から繋ぐ仕掛けをつくる。</p>
<p>整備プロセス （スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源^{注4}、費用削減の工夫に触れて説明してください）</p>	<p>商店街の利用者からキックオフメンバーを募集し、得意分野に分かれ、整備時の設計、資材搬入、連絡係などそれぞれ協力体制を作る。</p> <p>【近隣住民、学童、他団体からのボランティア】 商店街の各商店と地域住民。実行部隊として、学童や横浜市一時預かり事業の利用親子。他団体から、整備に関わる事例や情報、企業から、整備資金の支援を受ける。協働先団体に、建築設計・まちづくりの専門家がいるため、整備を進める中で、随時助言・支援を受けることができる。</p> <p>・地域からの寄付や、市の補助金・助成金などを活用して実施する。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 （維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源^{注4}に触れて説明してください）</p>	<p>1 屋台食堂 月1回屋台食堂を開催し、一食300円で提供（シニアの単身世帯、ひとり親家庭、小中学生は無料）。フードバンクや食材の寄付を利用して実施する。</p> <p>2 スマホ講座 週2回、主に高齢者を対象としたスマホ講座を開催し、1回500円でスマホの利用方法、便利なアプリの使い方などについてアドバイスを行う。</p> <p>3 ワークショップ・イベント企画 近隣の地域教育活動を行っている人を招いて、イベントを企画開催</p>

	<p>する。提案メンバーを軸に各活動でボランティアを都度募集して実施。</p> <p>4 いつでもステージの活用 えだきんアイドルEDKや付近のダンス教室などが、ステージを活用してイベントを開催できるようにする。(2～3か月に1回程度) えだきんアイドルEDKのグッズ販売などを通して収入源とする。</p>
--	---

注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- 「ヒト」の例 ・地域のPTAから協力を受けられそう。 ・地域に設計の専門家がいる。
- 「モノ」の例 ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。
- 「カネ」の例 ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 ・バザーなどで資金を集められそう。

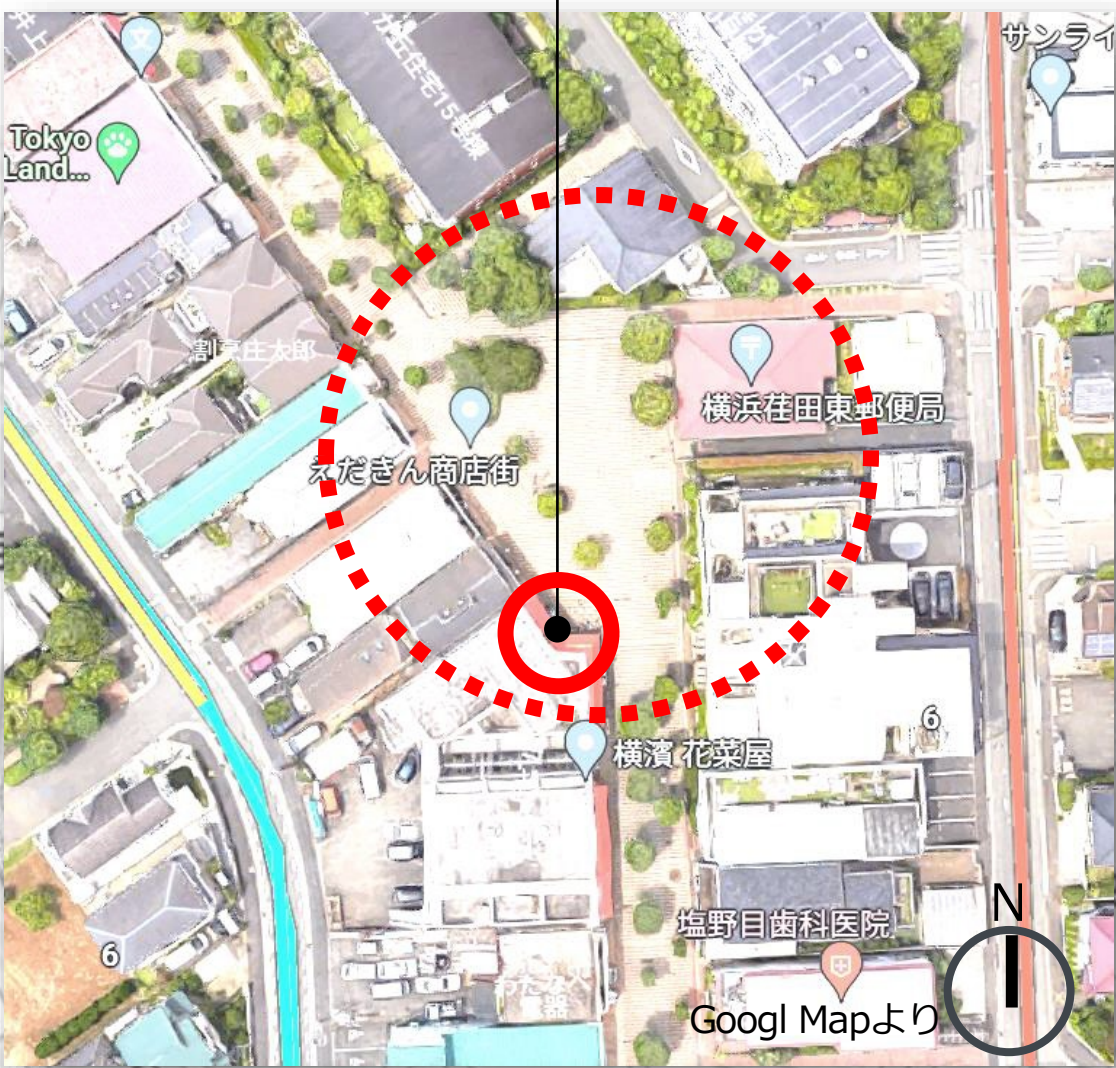
<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料(任意様式)に記入してください</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モヤキラCAFEなど現地視察会参加 ・早食いイベント、屋台食堂(毎月1回)開催
<p>関係者の合意・調整状況 (地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民への周知、説明、アンケート実施(今後も継続予定) ・土地所有者に10月中に挨拶&計画説明済(ぜひ、地域を盛り上げてくださいとのことでした) ・自治会長への挨拶(11月) ・向かいのマンション管理組合へ挨拶(10月、11月) ・えだきん商店街には何度か説明済(商店会合、商店街LINE、直接)
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>私たちの団体の強みは、すでに多世代交流の取組を3年間ここで行っている、というところです。</p> <p>地域の皆さんと協力して、より居心地の良い空間(場)を作り、バーチャルと繋ぎ、誰もが気軽に学び・体験できる場所と機会を提供していきたいです。</p> <p>今後はSDGsの取組として、食品ロスや廃棄課題を抱えた、商店街各店や近隣農家の「地域で食品ロスを循環していく地産地消」や「廃棄課題を解決するエコステーション」を協働開発、運営し継続できる仕組みを作りたいとも考えています。</p>
<p>目指す地域の将来像 (施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスを整備することにより、居心地の良い空間を創出し、地域住民同士の交友を深められるようにする。このテラスを拠点として様々な世代、様々な立場の人が集い合い、講座やステージイベントなどを通して自然につながりが生まれるえだきん商店街にしたい。 ・地域食堂を活用した、子どもたちや高齢者を含む地域住民同士の交友の促進、いつでもステージという身近な発表の場により挑戦を応援すること、バーチャル商店街とリアルを繋ぐことで、引きこもり気味の人まで巻き込んだコミュニティを形成することなどを通して、誰もがつながりを持ち孤立しないで自分の居場所を持てる地域を目指す。

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

●えだきん×夢叶キャラバン 位置図 (2次資料)

●パリジェンヌ前テラス



●えだきん×夢叶キャラバン 完成予想図

・ひきこもり気味な小中高生から高齢者など、外へつながりを持ちたくてもハードルを感じる人がいる。人前で何かをいきなりやるにはハードルが高い。一方、バーチャルは何度でも失敗でき挑戦できるので、ハードルが低い。でも、バーチャルだけではまだまだ生きていけない。そこで、バーチャルとリアルをつなぐ中継点として「安心」して、学べて体験できる「中間支援的な空間」をつくる。そのために必要なのが「えだきんメタワールド」。お仕事体験や学習支援、ステージ発表等を「疑似体験」できる。そこで得た通貨はリアルなえだきん商店街で使用できることで、相乗効果を生み出す。結果的に商店街の活性化にもつながる。シャッターにはQRコードを描くことにより、バーチャルな空間に日常的に参加できるようにする。



②いつでもステージ（発表の場）

- ・いつでも、だれでも気軽に発表できるステージ
- 音響設備・照明設備・映像設備等
- ・ステージ下に収納を設ける（H500程度）

パリジェンヌ（パンじいのパン屋さん）

ミニキッチン



① 青空テラス（屋台食堂 講座開催）

- ・オープンで誰でも集える場として運営することで誰もが気軽に立ち寄れる場ができる。
- ・地域での個食孤独孤立の低減に向け、地域で食を支援します。流し（ホース給水・タンク式）、配膳台等

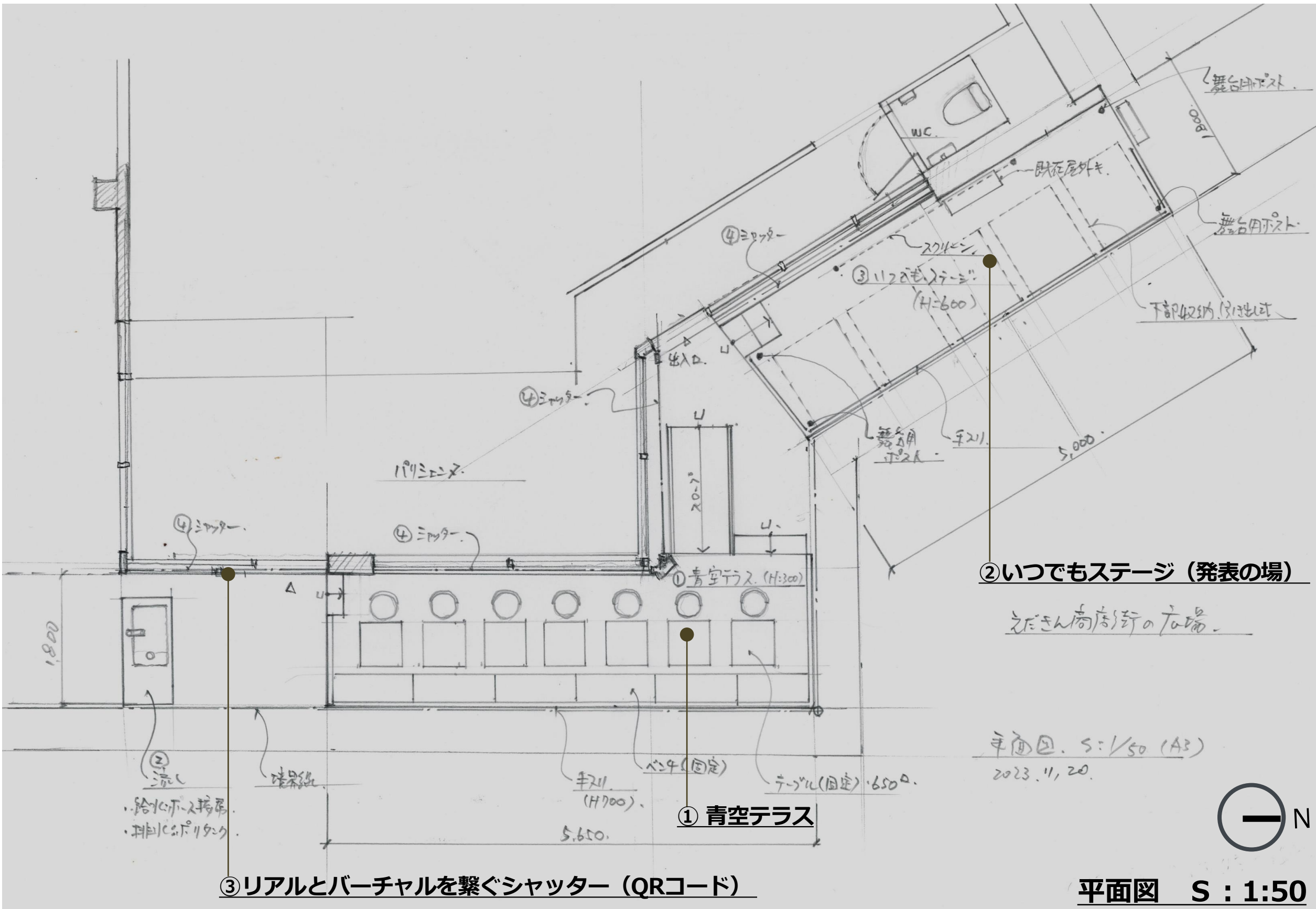
③リアルとバーチャルを繋ぐシャッター（QRコード）

- ・デジタルデバイドをなくし、スマート体験やネットでの買い物体験が気軽にできる仕組みの入り口、アプリ
- ・バーチャル商店街の開発も実践中。

●えだきん商店街の広場

センター南駅●

●えだきん×夢叶キャラバン 平面図 (2次資料)



ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 （費用又は労力の負担等）
ウッドデッキ・ステージ工事	人工木使用 27.9㎡	1式		3,650,000	金額を抑えるため、解体作業は地域住民の手で実施する。 20人・1日
テーブルと椅子材料費	1人掛け椅子・机7組 長ベンチ	1式		700,000	制作と設置を住民参加で実施
トイレの整備	内装・設備 資材共	1式		450,000	
電気工事		1式		250,000	
シャッターへのQRコード 塗装費	バーチャル商店街作成後、 参加店舗に塗装を行う	1式		100,000	材料費のみ 住民参加で作成
照明・音響設備		1式		200,000	
簡易手洗い用 流し	タンク式 使用時のみ給水	1台		150,000	
合 計				5,500,000	

1次コンテスト以降の活動内容

8月22日	(火)	モヤキラカフェ見学
8月26日	(土)	地域食堂
9月23日	(土)	まち普請懇談会
9月29日	(金)	山盛りポテト早食いイベント+屋台食堂（63食提供） アンケート実施 （カレーがおいしかった。温かいものが嬉しかった。）
10月3日	(火)	定例打合せ
10月10日	(火)	パリジェンヌ現場確認（採寸）
10月17日	(火)	定例打合せ
10月24日	(火)	定例打合せ
10月25日	(水)	地域づくり講座出席
10月26日	(木)	ミエル見学・フードバンク打合せ
10月27日	(金)	くじ付きパンイベント+屋台食堂（65食提供） アンケート実施 （平日夜が便利。いつも一人で食べているので賑やかで良かった。）
11月7日	(火)	施工会社と現場打合せ 定例打合せ
11月14日	(火)	定例打合せ
11月17日	(金)	現場にて打合せ
11月20日	(月)	霧が丘プラットホーム見学
11月21日	(火)	定例打合せ
11月22日	(水)	地域づくり講座出席
11月24日	(金)	くじ付きパンイベント 屋台食堂（社会福祉協議会の方がイベントに参加：2名）

その他資料

整備後の利用計画

1 スマホ講座

引き続き週2回開催予定

2 屋台食堂

引き続き毎月1回開催予定

3 ステージイベント

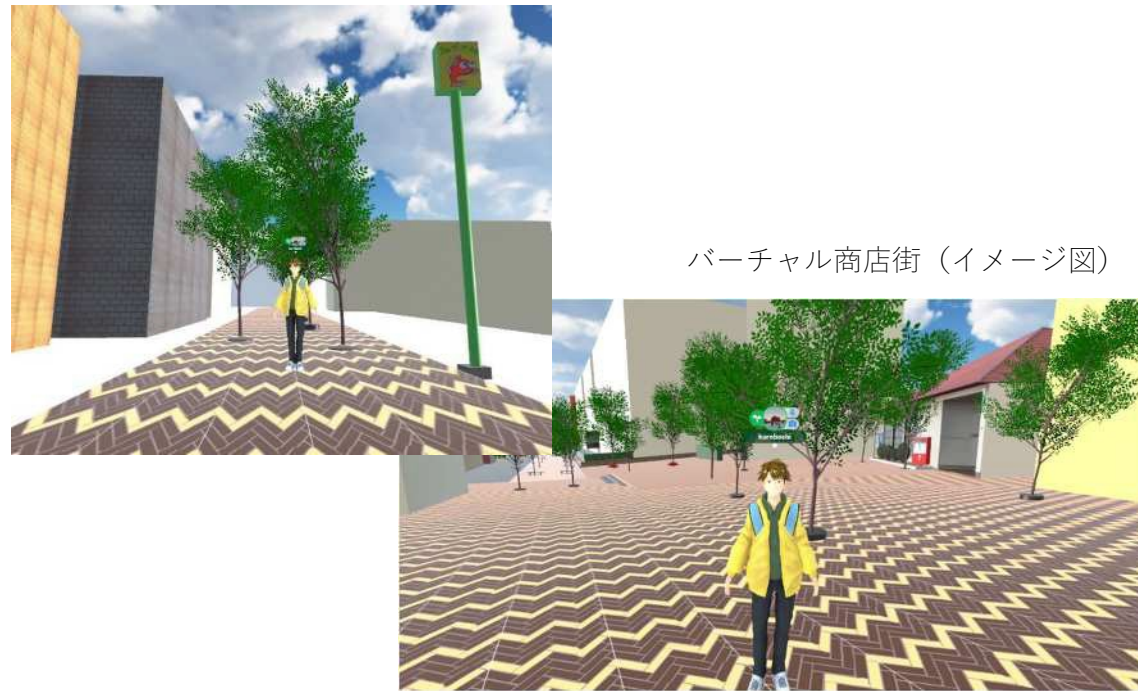
2～3か月に1回週末午後開催予定（カラオケ、ダンス発表など）

4 青空テラスでの各種講座など

- ・ 随時、地域住民に開放し、交流の場とする。
- ・ 協力いただけるボランティア団体と調整を行いつつ、イベントを企画する。（地域寺子屋による学習支援、保護猫に関する情報周知と譲渡会、高齢者向け健康講座（マッサージ・体操など）、不登校の親向けの交流会など）

5 バーチャル商店街による自宅に居ながらの体験

オンラインのバーチャル商店街の開発を進めつつ、参加いただける店舗との調整ができ次第、シャッターへのQRコードのペイントを行っていく。



バーチャル商店街（イメージ図）

将来的なイベントの計画

1 不登校児親子向けの居場所

2 多世代フリースクール

3 乳幼児預かり施設「さんぼ」や学童とつながっての子供向け企画

4 小中学生向け無料の寺子屋（学習支援）

5 地域の農家さんにつながるの農業体験

6 サクラスペイクリニックと共催で譲渡会や飼い主向けイベント

7 高齢者向け 読書会、ハンドマッサージ、健康体操